

JRA競走馬総合研究所スタッフが語る

# サラブレッド のおはなし

森 芸

(JRA競走馬総合研究所) = 文  
text by Takumi Mori

アメリカ競馬におけるダート中距離路線の1年を締め括る最高峰のブリーダーズクラシック(GI)。そのレースにカジノドライブが出走しました。しかし、世界が注目したのは、アメリカのダート最強馬決定戦が、25回目に初めてダートではない、オールウェザートラック(AWII全天候馬場)で行われたことです。ダート中心のアメリカ競馬、今まで天候不順による有力馬の敗退や故障が数々話題になってきましたが、ダートにこだわってきたアメリカ競馬の歴史が変わった瞬間でした。このレースでイギリスの芝実績馬が優勝したことは、今後のケンタッキーダービーをも変えてしまうかもしれません。

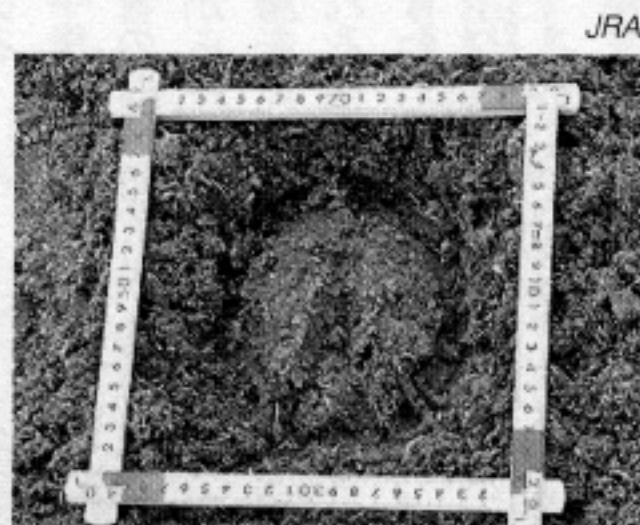
さて、1970年代にウッドチップ馬場が開発されて以来、冬期の調教を安全にできる馬場として、いろいろなAWトラックが開発されてきました。90年代には競馬場にも採用されて第1次ブームが起きましたが、高額な素材の割には耐久性やメンテナンスに問題があり、また事故の発生も多く、AWトラックは下火になっていきました。しかし、イギリスのリングフィールド競馬場で、長年改良を加えてきたニューポリトラックが採用されるから、この素材が安全で冬期も問題なく競馬ができることが実証され、流れが変わってきたのです。厳寒の日でも大雨の時でも晴天の日と変わらない馬場状態、故障馬が激減した

## 第2次オールウェザートラックブームの到来

という事実には、「馬の安全」に敏感なアメリカの関係者が黙ってはいませんでした。キーンランドの調教コースに導入されてから3、4年しか経っていませんが、アメリカの競馬場では本家イギリスを遙かにしのぐスピードで普及しています。ダートにこだわってきたアメリカ競馬も、「馬の安全」のためならGO!という、第2次ブームが起きています。

ここでAWトラックに話を戻しますが、砂+ワックス+弾性のある素材+化学繊維など「AWトラック」という簡単な組成のもので、無数の可能性が広がります。ですから、AWトラックにはニューポリトラック、エコトラック、タペタ、クッショントラック、ビスコライド、そして今回サンタアニタ競馬場で初めて使われたプロライドなど、たくさんの製品が存在します。そして、これらはそれぞれの地域で最も適した全天候型馬場として、進化し実績を積むものと、淘汰されていくものに分かれていくことでしょう。

昨年、美浦トレセンで導入されたニューポリトラック。最も使用実績があり、厳しい日本の環境基準にも適合すること、つまり馬にも人間にも環境にも優しい安全な素材として採用されました。しかし、いかにAWと言っても、大雨や雪や猛暑など過酷な条件をすんなりクリアし、安全な馬場であり続けることはできません。それを維持するには、やはり日々のきめ細やかな管理が重要なのです。



JRA  
ニューポリトラック馬場の蹄跡。くつきりと蹄の形が残り、滑りもなくがっちりグリップしている